

総務委員会資料

教 育 委 員 会

令和5年8月24日

1. 報告事項

- (1) 令和5年7月8日からの大雨に係る被害状況と対応について …… P 1
- (2) 令和6年度島根県公立学校教員採用候補者「特別選考試験（第2回）」
及び「一般選考試験（2次募集）」の実施について …… P 2
- (3) 江津地域の今後の県立高校の在り方について …… P 4
- (4) 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について …… P 30

令和5年7月8日からの大雨に係る被害状況と対応について

1. 被害状況等

(1) 臨時休校

邇摩高等学校及び江津工業高等学校（7月10日（月））

(2) 始業時間を遅らせた学校

なし

(3) 終業時間を早めた学校

なし

(4) 県有施設の被害状況

① 平田高等学校

法面崩落（法長 13m×幅 25m）

② 古代出雲歴史博物館

機械室浸水

2. 対応状況

被害を受けた県有施設の復旧工事等を実施するため、地方自治法第179条第1項に基づき知事専決処分により補正予算を措置

(1) 専決処分日

令和5年7月28日（金）

(2) 補正予算額

149,992千円

(3) 補正項目

（単位：千円）

事業名	説明	所管課
県有施設の 復旧事業	大雨により被害を受けた県有施設の復旧工事等を実施 [対象施設]	教育施設課 文化財課
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平田高等学校（法面復旧工事等） 90,570 ・ 古代出雲歴史博物館（電気設備復旧工事等） 59,422 	

令和6年度島根県公立学校教員採用候補者「特別選考試験（第2回）」 及び「一般選考試験（2次募集）」の実施について

1 目的

〔特別選考試験〕

30～40歳代の中堅層の不足等を踏まえ、即戦力となる人材を確保する。

〔一般選考試験〕

一般選考試験で出願の無かった校種・教科等を再募集し、必要な人材を確保する。

2 募集する校種、教科及び人数

(1) 特別選考試験（第2回）

校種	教科（科目等）		人数
小学校	—		15名程度
中学校	国語、社会、数学、理科、英語、音楽、美術、保健体育、技術、家庭		教科ごとに若干名
高等学校	情報、工業(電気、機械)、商業、水産(漁業)		
特別支援学校	小学部	—	若干名
	中学部	技術	教科ごとに若干名
	中学・高等部	国語、社会及び地理歴史、数学、理科、英語、音楽、保健体育、家庭	
	高等部	情報	

(2) 一般選考試験（2次募集）

選考枠	校種	教科（科目等）	人数
一般枠	中学校	技術	若干名
	高等学校	特別体育専任（保健体育） 〔対象競技〕ウエイトリフティング	1名
島根かみあり 国スポ競技力 向上枠	中学校 高等学校 特別支援学校	保健体育 〔対象競技〕陸上競技、体操競技	若干名

3 出願資格

(1) 特別選考試験

出願する校種・教科の教員免許状所有者で、次のア又はイの要件を満たす者

ア 島根県外の国公立私立学校で正規採用（任期付採用を除く）の教員として、令和6年3月31日時点で3年以上勤務している者（現職）

イ 直近6年間のうち、島根県内外の国公立私立学校で正規採用（任期付採用を除く）の教員として、過去に通算3年以上の勤務経験がある者（過去正規教員）

(2) 一般選考試験

① 中学校（技術）

次のアまたはイの要件を満たす者

ア 中学校教諭普通免許状「技術」の所有者

イ 中学校教諭普通免許状「技術」を有しない者で、中学校（技術）に関する社会的実務経験（※1）を有する者〔特別免許状による採用〕

※1 「材料と加工」「生物育成」「エネルギー変換」「情報」のいずれかに関する実務経験（経験年数：高専・短大・大学卒、大学院修了の者は概ね3年以上、高校卒の者は概ね5年以上）

② 高等学校（特別体育専任：ウエイトリフティング）

次のア、イの要件をすべて満たす者

ア 高等学校普通免許状「保健体育」の所有者

イ 特別体育専任（ウエイトリフティング）として、出雲農林高等学校に勤務できる者

③ 島根かみあり国スポ競技力向上枠

出願する校種・教科（保健体育）の教員免許状所有者で、次のア又はイの要件を満たす者

ア 国際規模の競技会等に日本代表として出場した競技者またはその指導者

イ 全国規模の競技会等において4位以上の成績を収めた競技者またはその指導者

4 出願期間

令和5年9月11日（月）～10月13日（金）

5 選考試験

(1) 試験内容、試験日及び会場

① 特別選考試験

試験内容	試験日	会場
個人面接 (※2)	令和5年10月21日(土) 東京会場、福岡会場	松江会場：島根県教育センター 東京会場：都道府県会館
	令和5年10月22日(日) 松江会場、大阪会場	大阪会場：JEC 日本研修センター江坂 福岡会場：TKP 博多駅筑紫ロビジネスセンター

② 一般選考試験

試験内容	試験日	会場
<ul style="list-style-type: none"> ・〔一般枠〕 専門教養・教職教養・ 論述試験 〔国スポ枠〕 論述試験 ・個人面接 (※3) ・実技試験（中学校技術を除く） 	令和5年10月22日(日)	島根県教育センター他

(2) 面接方法

1回30分程度の面接を2回実施

※2 特別選考試験は面接の中で「場面指導」を実施

※3 一般選考試験は面接の中で「模擬授業」と「場面指導」を実施

(3) 試験結果の通知

令和5年11月6日（月）

※全受験者に文書で通知。また、合格者（名簿登載者）の受験番号を午前9時に学校企画課ホームページに掲載

[参考①] 今後のスケジュール

令和5年9月4日（月）実施要項発表

[参考②] 特別選考試験（第1回：5/4）の選考結果

校種・職種	受験者	名簿登載者
小学校	12名	8名
中学校	6名	2名
高等学校	1名	1名
特別支援学校	2名	2名
合計	21名	13名

【名簿登載者（13名）の出願資格別人数】 県外現職教員10名、過去正規教員経験者3名（Uターン4名、Iターン8名、その他1名）

江津地域の今後の県立高校の在り方について

1 これまでの経緯

6月議会	「基本的な方針（案）」を説明
6月30日	江津市説明（市長・副市長・教育長）
7月5日	江津高校関係者説明会
11日	江津工業高校関係者説明会
15日	地域説明会
8月9日	島根県総合教育審議会への諮問・意見聴取
上旬	産業界（商工会議所・商工会）からの意見聴取

<参考>基本的な方針（案）

- ・ 江津地域の子どもたちの進路の選択肢の確保と、教育活動の充実を最優先に考え検討
- ・ 1学年2学級の江津高校と江津工業高校を統合し、新たに1学年3学級の高校を設置
- ・ 江津高校が築いてきた地域連携による進学を念頭においた学びを継承
- ・ 江津工業高校の伝統を生かすとともに、県西部の工業教育へのニーズに対応できるように、工業教育の更なる魅力化を検討
- ・ 工業教育の実習施設・設備が必要であることから、新設校は江津工業高校の場所を念頭
- ・ 開校する時期は、教育課程の検討と、それを踏まえた施設整備のため、令和10年度前後を想定

2 説明会等における主な質疑・意見等

(1) 江津市

- ・ 令和5年6月30日（金） 13:00～14:00 江津市役所
- ・ 江津市長、副市長、教育長
- ・ 主な意見

「地元の意見をしっかりと聴いて丁寧に進めてほしい」

「何よりも江津地域の子どもたちの教育を最優先に考えて検討してほしい」

「統合の有無にかかわらず、以下の視点で検討してほしい」

- これまで以上に島根県立大学との連携が深まって、進路選択しやす

い環境ができるとよい

- 江津高校の側からみると、普通高校、普通科という観点は重要
- 留学に向けたニーズもあり、グローバル人材の育成も視野に入れてほしい

(2) 江津高校関係者説明会

- ・ 令和5年7月5日（水） 18:00～19:50 江津高校
- ・ 参加者 43名（教職員27名、その他16名）
- ・ 主な意見
 - 「地域の意見を丁寧に聴いてほしい」
 - 「少人数学校の良さがあり、江津高校を残してほしい」
 - 「江津高校の魅力化の成果を見てほしい」
 - 「マスコミ報道が先行し、結論ありきに感じる。県教委の対応に不信感」
 - 「なぜ江津地域だけ検討に入るのか疑問」
 - 「普通科系が1学級で工業系が2学級という方針に疑問」

(3) 江津工業高校関係者説明会

- ・ 令和5年7月11日（火） 18:00～19:20 江津工業高校
- ・ 参加者 39名（教職員12名、その他27名）
- ・ 主な意見
 - 「開校までのスケジュールが遅すぎる」
 - 「魅力ある学校の具体像を示してほしい」
 - 「対等合併であるならば普通科系も2学級必要」
 - 「江津市の女子教育のため、普通科系も2学級あった方がよい」
 - 「県外や他地域からの入学者を増やすために女子寮を整備してほしい」
 - 「ポリテクカレッジとの連携を深め、地元就職者を増やしてほしい」
 - 「進学系の学科を島根県立大学の附属学科にしてほしい」

(4) 地域説明会

- ・ 令和5年7月15日（土） 13:30～15:30 江津市総合市民センター
- ・ 参加者 47名（江津高校関係者19名 江津工業高校関係者13名
市内小中学校関係者5名 その他・不明10名）
- ・ 主な意見
 - 「江津工業を名実ともに残してほしい」
 - 「江津高校の充足率が80%超まで回復している中での統合案は納得できない。白紙撤回してほしい」
 - 「専門高校と普通高校の統合は難しいのではないか」
 - 「普通科系1学級というのは納得がいかない」

- 「ポリテクカレッジとの連携を深めて魅力的な工業教育にしてほしい」
「江津高校が取り組んできた少人数教育や地域と連携した学びを大事にしてほしい」
「これから高校へ進学する小中学校の保護者の意見が大事なので聴く機会を持ってほしい」
「高校の統廃合は地域振興に影響する。その視点でも議論してほしい」

(5) 第1回島根県総合教育審議会

- ・ 8月9日（水）
- ・ 主な意見
「統合で魅力が薄れる可能性がある。新たな魅力を加えて県内で1番をめざしていくくらいの意識が必要」
「地域と一体となった学びの成果が出つつある中での統合検討に地域が戸惑いを感じている」
「統合によって学校規模が維持されることで部活動の選択肢が広がる」
「小規模校を維持することによるメリットもある」

(6) 産業界からの意見

- ・ 3商工会議所（浜田商工会議所、大田商工会議所、江津商工会議所）
- ・ 6商工会（銀の道商工会、桜江町商工会、石央商工会、美郷町商工会、邑南町商工会、川本町商工会）
- ・ 主な意見
「工業教育の専門性は絶対に必要である」
「地元地域から高校生が流出しないような魅力的な新設校ができるのでなければ統合の意味がない」
「地元の中学生在が地元の高校に進学し地元就職する、その流れが大事」
「建築・土木の資格を持った人材が必要」
「江津工業の専門性と江津高校の地域と連携した学びが維持されることが統合の大前提」
「ポリテクカレッジや島根県立大学と連携して地元地域に定着する取り組みが必要」
「普通科系において理系の学びが必要」
「普通科系の生徒がものづくりに興味を持つことができるような学びに期待」

3 今後のスケジュール

- 9月13日（水） 第2回島根県総合教育審議会
地域関係者（4名）から意見聴取予定

島教企第508号
令和5年8月9日

島根県総合教育審議会

会長 肥後 功一 様

島根県教育委員会

島根県教育委員会は江津地域の子どもたちの教育環境を将来にわたって維持するために江津地域の県立高校の在り方について検討を重ね、別添のとおり現段階における基本的な方針（案）を定めました。

江津地域の今後の県立高校の在り方について、諮問します。

江津地域の今後の県立高校の在り方について

1 はじめに（諮問理由）

平成 31 年 2 月に公表した『県立高校魅力化ビジョン』では、浜田市・江津市の県立高校の在り方について別枠で記述し、「高校と地域が一体となった魅力化・特色化の取組や成果を踏まえ、中学校卒業生数や入学定員に対する志願者数、入学者数の状況等を注視しながら、地域における高校・学科の在り方や配置について検討する」とした。

学校基本調査で見通せる小学校 1 年生までの在籍数をもとに、令和 14 年 3 月までの江津市内の中学校卒業生数を推計したとき、5 年 3 月の 180 人に対して 14 年 3 月は 140 人 (22.2%の減) となり、浜田市内 (7.8%減) と比べて江津市内は子どもの数の減少が顕著であるといえる。さらに、直近 5 年の江津市の出生数 (前年 10 月 1 日から 9 月 30 日まで) も、平成 30 年 132 人、令和元年 136 人、2 年 112 人、3 年 113 人、4 年 112 人と減少傾向にある。

また、江津地域の中学校卒業生の希望進路は多様であり、市内の私立高校、他地域の県立高校、さらには県外の高校等を希望する生徒が一定程度いるため、近年の江津高校、江津工業高校への進学者をあわせて 40%程度に留まっている。江津地域の令和 10 年前後の中学校卒業生数が 150 名前後と見込まれることから、両校への進学を希望する生徒数は、1 学年 60 人程度、江津市外からの入学者を加味しても 100 人程度と想定される。つまり、現在の 1 学年 2 学級 80 人定員の 2 校を、将来にわたって維持することは困難であると考えられる。

このような状況に鑑み、江津地域の子どもの選択肢を確保した上で、将来にわたって充実した高校教育を提供し、卒業後の進路に繋げていくことを第一に考えて検討した。浜田市・江津市を一体的に考えた場合、昭和 33 年以前のように浜田高校、浜田水産高校、江津工業高校の 3 校の形に戻すことも考えられるが、昭和 33 年に江津市待望の普通科高校が設置され、以降 65 年間にわたり普通科人材を輩出してきたことを考慮すれば、人材育成、移住・定住、まちづくりの観点から、今後も江津地域に普通科系の学び場を残すことが必要と考える。一方で、石見地域における工業人材の育成の観点からは、工業教育のさらなる魅力化も必要である。現在、石見地域における工業人材の育成は、益田翔陽高校の 2 学科と江津工業高校の 2 学科によって担われているが、江津工業高校はその長い歴史の中で、石見地域における工業人材の輩出に大きく貢献してきており、現在も地元産業界から大きく期待されている。このため、工業系の学びにおいては、江津地域の中学生の進路の選択肢という視点だけでなく、石見地域全体の工業人材を育成するという視点からも、幅広く専門的な学びを維持する必要がある。

こうした高校教育を実現するためには、両校を統合し 1 学年 100~120 人規模の新たな高校を設置することが望ましいと考える。その規模があれば、多様な学びのニーズへ対応や、学校行事や生徒会活動、部活動の充実が図られ、より切磋琢磨できる教育環境を確保したり、多様な関係性の中でコミュニケーション能力やリーダーシップを身に付けたりすることが可能となる。

また、江津地域に普通科系の学びと工業系の学びをあわせ持つ高校を設置することで、保育や看護、栄養などの資格職や、まちづくりに関わることで江津地域に貢献しようとする人材の育成と、様々な専門分野で活躍する工業人材の育成の両方を担うことができると考える。

2 現状

近年の少子化の影響や進学先の多様化により、江津地域における現状の県立高校の配置では、望ましい教育環境を将来にわたって維持することが難しくなっており、抜本的対応と教育の更なる質の向上が必要

(1) 江津高校と江津工業高校の入学者数等

高校	年度	H31	R2	R3	R4	R5	5年平均
江津高校	定員	80	80	80	80	80	80
	入学者数(県外生)	72(1)	55(4)	57(2)	60(1)	66(2)	62(2)
	定員充足率	90.0%	68.7%	71.2%	75.0%	82.5%	77.5%
江津工業高校	定員	80	80	80	80	80	80
	入学者数(県外生)	50(0)	55(1)	49(2)	41(1)	45(0)	48(1)
	定員充足率	62.5%	68.7%	61.2%	51.2%	56.2%	60.0%

(2) 江津市内中学校卒業生数推移

卒業年月	R3.3	R4.3	R5.3	...	R8.3	...	R14.3
中学校卒業生数	190	190	180	...	148	...	140
R5.3比	+10	+10	—	...	△32	...	△40

※ R8.3とR14.3の卒業生数は、令和5年5月1日現在の小中学校在籍者数より推計

(3) 江津市内中学校卒業生のうち高校(全日制)進学者の内訳

年度		R3	R4	R5	...	R8
江津高校		47 (+市外10)	46 (+市外14)	45 (+市外21)	...	35 (+市外14)
江津工業高校		20 (+市外29)	20 (+市外21)	20 (+市外25)	...	15 (+市外25)
私立高校 及び その他地域	浜田市内県立	40	34	26	...	87
	江津市内私立	36	36	37		
	その他県内	27	33	23		
	県外	6	8	11		
計		176	177	162	...	137

※ R8の進学者は、令和5年度までの入学者数により推計

3 基本的な方針（案）

- ・ 江津地域の子どもたちの進路の選択肢の確保と、教育活動の充実を最優先に考え検討
- ・ 1学年2学級の江津高校と江津工業高校を統合し、新たに1学年3学級の高校を設置
- ・ 江津高校が築いてきた地域連携による進学を念頭においた学びを継承
- ・ 江津工業高校の伝統を生かすとともに、県西部の工業教育へのニーズに対応できるよう、工業教育の更なる魅力化を検討
- ・ 工業教育の実習施設・設備が必要であることから、新設校は江津工業高校の場所を念頭
- ・ 開校する時期は、教育課程の検討と、それを踏まえた施設整備のため、令和10年度前後を想定

<新設校のイメージ>

想定される学び		1学年当たりの学級数	
進学を念頭に置いた普通科系の学び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文系進学をめざすコース ・ 看護・栄養・保育などの資格職をめざした進学コース 	1学級	2学科 3学級
工業教育の更なる魅力化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械系 ・ ロボット制御系 ・ 建築系 ・ 電気系 	2学級	

4 地元説明

(1) 江津市

- ・ 令和5年6月30日（金） 13:00～14:00 江津市役所
- ・ 江津市長、副市長、教育長
- ・ おもな意見
 - 「地元の意見をしっかりと聴いて丁寧に進めてほしい」
 - 「何よりも江津地域の子どもたちの教育を最優先に考えて検討してほしい」
 - 「統合の有無にかかわらず、以下の視点で検討してほしい」
 - これまで以上に県大との連携が深まって、進路選択しやすい環境ができるとよい
 - 江津高校の側からみると、普通高校、普通科という観点は重要
 - 留学に向けたニーズもあり、グローバル人材の育成も視野に入れてほしい

(2) 江津高校関係者説明

- ・ 令和5年7月5日（水） 18:00～19:50 江津高校
- ・ 参加者 43名 （教職員27名、その他16名）
- ・ おもな意見
 - 「地域の意見を丁寧に聞いてほしい」
 - 「少人数学校の良さがあり、江津高校を残してほしい」
 - 「江津高校の魅力化の成果を見てほしい」
 - 「マスコミ報道が先行し、結論ありきを感じる。県教委の対応に不信感」
 - 「なぜ江津地域だけ検討に入るのか疑問」
 - 「普通科系が1学級で工業系が2学級という方針に疑問」

(3) 江津工業高校関係者説明

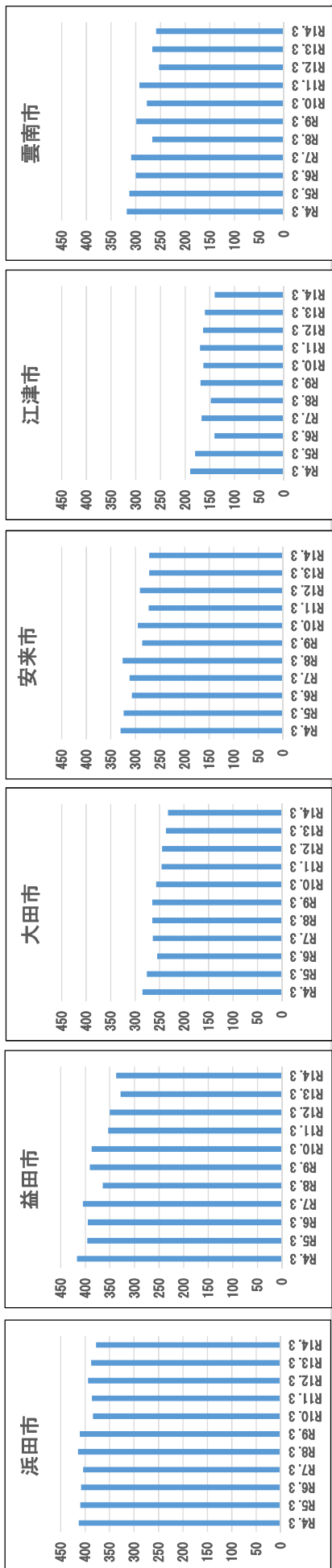
- ・ 令和5年7月11日（火） 18:00～19:20 江津工業高校
- ・ 参加者 39名 （教職員12名、その他27名）
- ・ おもな意見
 - 「開校までのスケジュールが遅すぎる」
 - 「魅力ある学校の具体像を示してほしい」
 - 「対等合併であるならば普通科系も2学級必要」
 - 「江津市の女子教育のためにも普通科系2学級あった方が良い」
 - 「県外や他地域からの入学者を増やすために女子寮を整備してほしい」
 - 「ポリテクカレッジとの連携を深め、地元就職者を増やしてほしい」
 - 「進学系の学科を島根県立大学の附属学科にしてほしい」

(4) 地域説明会

- ・ 令和5年7月15日（土） 13:30～15:30 江津市総合市民センター
- ・ 参加者 47名 （江津高校関係者19名 江津工業高校関係者13名
市内小中学校関係者5名 その他・不明10名）
- ・ おもな意見
 - 「江津工業を名実ともに残してほしい」
 - 「江津高校の充足率が80%超まで回復している中での統合案は納得できない。白紙撤回してほしい」
 - 「専門高校と普通高校の統合は難しいのではないか」
 - 「普通科系1学級というのは納得がいかない」
 - 「ポリテクカレッジとの連携を深めて魅力的な工業教育にしてほしい」
 - 「江津高校が取り組んできた少人数教育や地域と連携した学びを大事にほしい」
 - 「これから高校へ進学する小中学校の保護者の意見が大事なので聞く機会を持ってほしい」
 - 「高校の統廃合は地域振興に影響する。その視点でも議論してほしい」

補足資料1

浜田市・益田市・大田市・安来市・江津市・雲南市における中卒者数推移と県立高校配置状況



中卒者数推移 (令和5年5月1日現在の在籍者数から推計)

全日制 学級数別学校数								
学級数	8	7	6	5	4	3	2	1
学校数				1				2

浜田市

全日制 学級数別学校数								
学級数	8	7	6	5	4	3	2	1
学校数					2			

益田市

全日制 学級数別学校数								
学級数	8	7	6	5	4	3	2	1
学校数					1			

大田市

全日制 学級数別学校数								
学級数	8	7	6	5	4	3	2	1
学校数					1			

安来市

全日制 学級数別学校数								
学級数	8	7	6	5	4	3	2	1
学校数							2	

江津市

全日制 学級数別学校数								
学級数	8	7	6	5	4	3	2	1
学校数					1	1		1

雲南市

全日制学科別及び定時・通信制入学定員 (R5)													
普通	理数・探究	体育	国際	工業	商業	農林	水産	総合	全日制計	定時	通信		
4	160	1	40		2	80	2	80	9	360	2	80	100

全日制学科別及び定時・通信制入学定員 (R5)													
普通	理数・探究	体育	国際	工業	商業	農林	水産	総合	全日制計	定時	通信		
3	120	1	40	2	80	1	40	1	40	8	320		

全日制学科別及び定時・通信制入学定員 (R5)													
普通	理数・探究	体育	国際	工業	商業	農林	水産	総合	全日制計	定時	通信		
3	120	1	40					3	120	7	280		

全日制学科別及び定時・通信制入学定員 (R5)												
普通	理数・探究	体育	国際	工業	商業	農林	水産	総合	全日制計	定時	通信	
4	160				3	120			7	280		

全日制学科別及び定時・通信制入学定員 (R5)												
普通	理数・探究	体育	国際	工業	商業	農林	水産	総合	全日制計	定時	通信	
2	80			2	80				4	160		

全日制学科別及び定時・通信制入学定員 (R5)													
普通	理数・探究	体育	国際	工業	商業	農林	水産	総合	全日制計	定時	通信		
4	160							4	160	8	320		

補足資料2

1 江津市内中学校卒業生数推移

卒業年月	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3	R8.3	R9.3	R10.3	R11.3	R12.3	R13.3	R14.3
中学校卒業生数	190	190	180	141	167	148	169	163	170	164	160	140
R5.3比	+10	+10	—	△39	△13	△32	△11	△17	△10	△16	△20	△40

※ R6.3～R14.3の卒業生数は、令和5年5月1日現在の小中学校在籍者数より推計

2 江津市内中学校卒業生のうち高校(全日制)進学者の内訳

年度	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3	R8.3	R9.3	R10.3	R11.3	R12.3	R13.3	R14.3
江津高校	47 (+市外 10)	46 (+市外 14)	45 (+市外 21)	32 (+市外 14)	40 (+市外 15)	35 (+市外 14)	40 (+市外 16)	40 (+市外 14)	41 (+市外 15)	40 (+市外 14)	40 (+市外 14)	36 (+市外 14)
江津工業高校	20 (+市外 29)	20 (+市外 21)	20 (+市外 25)	15 (+市外 26)	18 (+市外 26)	15 (+市外 25)	18 (+市外 28)	17 (+市外 24)	18 (+市外 26)	17 (+市外 26)	17 (+市外 25)	15 (+市外 26)
私立高校及び その他地域	109	111	97	83	96	87	98	94	98	95	91	78
計	176	177	162	130	154	137	156	151	157	152	148	129

※ R8以降の進学者は、令和5年度までの入学者数により推計

【参考】江津市の出生数推移(しまね統計情報データベースより)

調査年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
出生数	209	147	158	176	162	162	161	191	166	157	164	132	136	112	113	112

※ 出生数は調査前年度の10月1日から調査年度の9月30日までに生まれた子の数

補足資料3

1 江津高校進路先内訳 (R元卒～R4卒)

		R元卒	R2卒	R3卒	R4卒
進 学	文系	20	23	23	16
	教育系	1	1	2	1
	理工系	3	3	2	6
	資格職	3	4	4	3
	短大・ 専門等	11	9	9	8
就 職	その他	17	14	24	14
	県内	13	1	4	5
	県外	0	0	1	0
	公務員	4	2	2	1
	島根大学	1	1	0	1
再 掲	島根県立大学 (短大部内数)	8 (0)	9 (0)	7 (2)	8 (1)
	ポリテクカレッジ島根	0	1	2	0

教育委員会調べ(調査時点で未定の生徒は含めていない)

進学の区分について

- ・文系は文、経、法、国、言語系学部等(理工系、教育系をのぞく)の学部・学科への進学
- ・教育系は、保育をのぞく教育系学部への進学
- ・理工系は理、工、医、薬・情報・農学部等への進学
- ・資格職は、看護、保育、栄養の学部・学科への進学

2 江津工業高校進路先内訳 (R元卒～R4卒)

		R元卒	R2卒	R3卒	R4卒
進 学	文系	0	0	0	0
	教育系	0	0	0	0
	理工系	1	1	3	5
	資格職	0	0	0	0
	短大・ 専門等	0	2	0	0
就 職	その他	10	9	6	12
	県内	36	39	31	17
	県外	15	12	7	16
	公務員	1	1	1	0
	島根大学	0	0	0	0
再 掲	島根県立大学 (短大部内数)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	ポリテクカレッジ島根	1	4	2	4

他県の普通科系と工業科の併設校について

併設のメリットについてホームページ等に明記してある学校

- (1) 青森県立五所川原工科高等学校 【普通、機械、電子機械、電気】
一つの学び舎に集った「普通科」「機械科」「電子機械科」「電気科」4学科の仲間が3年間共に学校生活を送ることを通して、考えや立場の異なる相手を尊重・協調しながら、よりよい解決方法を探る態度を育成します。（「学校長メッセージ」より抜粋）
- (2) 埼玉県立児玉高等学校 【普通、機械、電子機械、生物資源、環境デザイン】
普通科と農業・工業の専門学科が1つになった、全く新しいタイプの高校です。この利点を生かし、普通科でも農業や工業の勉強ができます。更に他の普通科では取得できない資格や検定試験に挑戦することもできます。（「校長室より」より抜粋）
- (3) 和歌山県立紀央館高等学校 【普通、工業技術】
二つの学科を設置している利点を活かし、学科間の連携を図り一部相互に選択できるようにしています。（「本校の学習課程」より抜粋）
- (4) 広島県立府中東高等学校 【普通、都市システム、インテリア】
県内唯一の普通科・工業科併設校としてのメリットを生かし、普通科に在籍しながら工業系の資格を取得することが可能です。（「普通科学科紹介」より抜粋）
- (5) 香川県立観音寺総合高等学校 【総合、工業】
工業科（3学科）と総合学科（5系列）を併設し、工業科が担ってきた「ものづくり教育」と、総合学科が担ってきた「多様なニーズに対応した教育」を継承し、より多くの友人と切磋琢磨することで、生徒一人ひとりの個性、能力を伸ばすとともに、明日の社会の担い手として主体的に行動できる、心豊かでたくましい人間を今後とも育成していきます。（「校長より歓迎のご挨拶」より抜粋）

地域説明会・学校関係者説明会等における 主な質問項目に対する回答および意見等

【教育内容について】

Q 望ましい教育環境とは何か？

A 江津地域の子どもたちの選択肢を確保した上で、充実した高校教育を提供し、卒業後の進路に繋げていくことが最も重要であると考えております。そのためには、1学年50～60人規模の学校では充分とはいえない多様な学びのニーズへの対応や、学校行事や生徒会活動、部活動の充実などが、1学年100～120人規模となることで、より切磋琢磨できる教育環境を確保できたり、多様な関係性の中でコミュニケーション能力やリーダーシップを身に付けたりすることにつながると考えます。

Q 普通科系の学びの想定において、看護・栄養・保育といった具体的な資格職が示されているのはなぜか？ また、文系進学が想定されているのに、理系進学の記載がない。理系の学びも必要ではないか？

A 想定される学びの主なものとして、文系進学と資格職をめざした進学の2コースを挙げています。ここ数年間の江津高校卒業生の進路先として、主に文系進学と資格職を目指した進学があり、新設校でも普通科系の学びとしてこの2つのコースが必要であると考えました。今後、詳細な教育課程の検討をしていく際に、理系希望者の進学状況も分析しながら、理系の学びについて考えていくこととなります。

Q 工業科と普通科系が統合することのメリットは？

A コンソーシアムを中心とした高校と地域との連携・交流がさらに深まること。また、工業科と普通科の学びの融合によって、部活動や学校行事の活性化だけにとどまらない相乗効果が生まれることを期待しています。詳細の教育課程や特色ある教育活動については、基本的な方針を決定した後の検討となりますが、例えば、普通科の生徒にとっては実習や就職準備に取り組む工業科の生徒の姿を通して新たな地域社会に貢献する視点が芽生えること。また、工業科の生徒にとっては、進学を目指す普通科の生徒から刺激を受け、就職以外にも県内の大学進学を目指す意欲が高まることなども期待しています。

Q 詳細な部分を検討する場合にも、地域の意見も丁寧に聞き取ってほしい。

工業教育では、プログラミングを学習の中心に据えるなど他の工業高校と差別化を図るべき。

A 教育課程や特色ある教育活動、部活動などの詳細は、基本的な方針を決めた後に検討することになります。その際は、県教育委員会だけで検討するのではなく、コンソーシアム、地域の方のご意見も伺いながら検討していくことになると考えています。

Q 地域人材を育成する観点から、工業系の学びにポリテクカレッジとの授業連携を取り入れることで5年間の教育コースを設定し、地域で活躍できる子どもを育てることも検討してほしい。島根県立大学や島根大学の附属学科のような位置づけとすることも検討してほしい。

A 連携・協働を期待する教育機関として、島根大学や島根県立大学、ポリテクカレッジなどがあります。地域資源を活用した特色ある教育課程を構築することは「県立高校魅力化ビジョン」でも大切にしているところでもあります。基本的な方針が定まった後、詳細な教育課程などを検討する際には、普通科系と工業系のそれぞれに、こうした機関との連携・協働による特色ある教育活動についても取り入れてまいります。

Q 工業系ではマイスター・ハイスクール、普通科系では国際バカロレアなど、魅力化・特色化にチャレンジしてほしい。

A 基本的な方針が定まった後、具体的な教育課程や特色ある教育活動について検討します。その際、いただいたご意見についても実現可能かどうかを検討することになりますが、それぞれ認定のための必要な条件がいくつかあり、実現するためのハードルは高いと思っています。子どもたちにとって魅力的な高校となるよう両校の教員やコンソーシアム、連携する教育機関等と相談しながら進めてまいります。

※ マイスター・ハイスクール事業は、近年の急速な産業界の変化に対応した次世代の職業人材を育成する仕組みを産業界と専門高校が一体となって構築することを目的として、一昨年度から文部科学省が進めている事業。具体的には、企業からの管理職の出向や技術者の派遣を受けることで、産業界をはじめ関係者が一体となって学科やコースの改編などにより、教育カリキュラムを刷新することや、企業等での授業、実習を多数実施するといった取組を行うもの。令和3年度から3か年事業で始まり、令和5年度の段階で全国に17機関が採択されている。

※ 国際バカロレア (International Baccalaureate) は、国際バカロレア機構 (本部ジュネーブ) が提供する国際的なプログラム。1968年、世界の複雑さを理解して、そのことに対処できる生徒を育成し、生徒に対し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身につけさせるとともに、国際的に通用する大学入学資格を与え、大学進学へのルートを確保することを目的として設置。

意見・要望

- ・建築系の仕事では土木技術者が足りていないため、土木科が必要と考える。
- ・工業系のカリキュラム(特に情報系科目)を設定し、新設校の強みにしてほしい。
- ・探究に力を入れてダイナミックなカリキュラムを編成して、子どもたちが主体的に学び、自信をもって社会に出るような学びができると面白いと思う。
- ・理系進学を希望した場合に、私立か市外に進学せざるを得ないのは、理系教育が捨て置かれたという感覚がある。地元で学び続けられる環境がほしい。
- ・普通科を文系としているのは不自然。理系大学を目指せるように考えるべき。
- ・江津高校が行ってきた少人数教育を生かしてほしい。
- ・芸術の科目(音楽)選択ができるようにしてほしい。
- ・普通科系ではなく普通科を残してほしい。
- ・海外留学などグローバル人材育成のための教育活動を推進してほしい。
- ・新たな時代に必要とされる人材を育てるためのカリキュラムに改めるチャンスだと思う。
- ・選択肢がたくさんある学校をつくってほしい。
- ・普通科生徒にとって工業科生徒と共に学ぶメリットがない。普通科と工業科の共存は難しいと思う。

【学校活動について】

Q 2030 国スポに向けての強化育成は始まっている。このタイミングでの在り方検討には疑問。

A 県立高校の在り方検討は「県立高校魅力化ビジョン」にもとづいて、地域の中学校等卒業生数、志願者数、入学者数の推移等を総合的に判断して検討する時期がきたことによるものです。国スポの選手強化は、新設校の議論に関わらず進めていきます。

→Q 統合の新聞記事によって江津高校に入学して部活動に専念することを希望していた県外の中3生からもう志願変更するしかないとの話がきた。

A 是非その生徒の誤解を解いていただきたいと思います。現在の中3生にとって、今後の高校3年間の教育環境は現状と変化はありません。

→Q 統合されると部活動はどうなるのか？

A 部活動の具体的な在り方は、基本的な方向性を決めた後、しっかりと時間をかけて検討します。現時点で、統合によりどこかの部活動を廃部にするということは考えていません。

→Q 統合されると部活動の練習場所が不便になるのではないか。

A 部活動の活動場所については引き続き、江津高校のグラウンドやプール、体育館を活用することを考えています。もちろん一般の施設利用もあり得ます。

→Q 部活動の練習場所が江津高校の施設となると移動負担が大きいのではないか。

A 部活動の練習場所までの移動方法についても、今後、検討していくことになります。

Q 令和2年度に江津市と県立3校でコンソーシアムを設置し、魅力化を進めてきた。江津高校についても、その成果が出はじめているところ。これからの成果を見てほしい。

A 「県立学校 GO▶GOTSU コンソーシアム」では、江津高校における「GOTSU ミニトークフェス」「GOTSU ヒトコトモノツアー」「GOTSU ビトインタビュー」などのインプットのための事業や地域課題解決型学習、江津工業高校における「つながる」事業、「みがく」事業、「つたえる」事業などの取組をされており、その協働体制の構築や取組の推進に対しては、心より感謝申し上げます。

コンソーシアムの活動は、是非、新設校においても引き継いでいただき、地域と高校とが協働して、江津地域の子どもたちの学びの充実を実現していただきたいと考えています。

意見・要望

- ・特徴のある教育活動で魅力化をし、市外・県外から生徒が入学してくる学校にしてほしい。
- ・部活動の勧誘等のためにも、統合後の細かい部分まで早く決めてほしい。
- ・各高校の部活動の魅力も引き継いで活かしてほしい。
- ・全国の統合校を研究して、魅力的な高校をつくってほしい。
- ・少子高齢化に対応した学びがほしい。魅力ある高校になるよう県教委の支援を期待する。

【学校規模について】

Q 普通科系1学級、工業系2学級とした理由は？ 普通科系が2学級ではないのか？

A 江津地域における普通科系の学びと県西部における工業教育として、普通科系の進学を念頭に置いた2コースと、工業教育は教育内容の幅が広いいため4コースを想定しています。あわせて6コース各20人の120人を想定しています。このため普通科系1学級、工業系2学級としております。

- 開校を目指すR10年度前後の推計値において、江津市内から江津高校への進学者数は1学級40人程度です。年々によって流動的な市外からの進学者を含めても50人程度であり、2校あわせても100人程度と予測されます。
- R10年度以降においては、さらなる減少が見込まれます。

→Q 江津高校の将来推計値は、どのように出されたものか？

A 過去5年間の県内すべての中学校等について、卒業した生徒のうち江津高校へ入学した割合から今後の見込み係数を算出し、その係数を各中学校等の卒業見込み生徒数に掛けた数値を合計して推計値としています。

→Q 江津高校は市外生を増やし、充足率も増加傾向にある。これを考慮し普通科系を2学級としてほしい。

A 特色ある教育課程や魅力的な教育活動を検討し、まずは市内の中学生に選ばれる高校となることで、市外からの入学生も増えることを期待しています。

江津高校が地域と連携して行っている特色ある教育活動の成果として、今後、中学校等卒業生の進路状況が変化し、新設校で普通科系の学びを希望する子どもたちがさらに増えてくれば、開校にあたりクラス増もあり得ます。

→Q 今後の入学者数も注視して、入学定員を増やすこともあり得るということだが、基本的な方針に学級数まで定めるのか。

また、入学定員はいつ頃公表されるのか。

A 今後の手順としましては、基本的な方針を定めた後、詳細な教育課程等を検討し、必要となる施設整備等を考えていくこととなります。したがって、まずは基本となる学級数を定める必要があります。

入学定員につきましては、今後の両校の入学者数を注視し、開校2年前の9月頃の公表となります。

意見・要望

- ・2校対等の統合であることを示すため、また、女子生徒の受け皿として普通科系2学級、工業系2学級が必要である。普通科が減少すると若い女性が流出しないか心配である。
- ・江津工業高校のための統合案に見える。江津高校の単独維持を求める。
- ・伝統ある江津工業高校を名実ともに残すべきである。
- ・女子教育の場が必要である。普通科系にゆとりある定員設定を希望する。
- ・県外生の入学について整理して考えてほしい。寮があれば県外生が増えると思う。
- ・江津高校の敷地に新設校を設置する方がポリテクカレッジとの協働学習が進めやすいと考える。

【手続き等について】

Q 平成31年2月に策定された「県立高校魅力化ビジョン」は地域と一体となった魅力化推進をうたっていたが、統合再編に舵を切るということは、このビジョンは無効となったのか？

A ビジョンは令和元年度から10年度までの10年間の方針であり、現在も有効です。ビジョンの中でも別枠で記述されている江津・浜田地域について、地域における高校・学科の在り方や配置について検討する時期がきたと考えています。

→Q なぜ江津地域だけ検討に入るのか、浜田地域や他地域は検討しないのか？

A 江津地域の生徒数の減少が顕著であり、浜田地域は減少が緩やかとなっているため江津地域を検討することとしました。また、他地域においても生徒数の減少は見られますが、中山間地域では進路保障の観点から現状を維持することとし、他の市部では学級減で対応しています。

→Q ビジョンには、石見部全体で議論すべきとあったが、なぜ江津地域だけの検討なのか？ 江津市内だけで統廃合しなくても良いのではないのか？

A 石見部において工業教育は、江津工業と益田翔陽がありますが、浜田市にはありません。普通科系教育は大田・江津・浜田・益田にあります。さらに中学校等卒業生数の減少は浜田地域よりも江津地域が顕著です。これらのことを総合的に踏まえた検討となっています。

→Q 平成30年までの再編成基本計画にあった「定員の5分の3を切ったら統廃合の検討」というような基準は今もあるのか？

A 「県立高校魅力化ビジョン」に統廃合基準はありません。地域の中学校等卒業生数、志願者数、入学者数の推移等を総合的に判断して検討することになります。

Q 8月に予定されている総合教育審議会のメンバーに石見のことを理解している委員に入ってもらいたい。石見部の状況を理解したうえで議論してほしい。

A 審議会委員の選任にあたっては、専門性や地域バランスを考慮しています。8月の審議会においては委員の皆様に対して、検討に至った経緯及び学校関係者説明会や地域説明会でいただいたご意見などをきちんと説明し、十分に議論ができるよう努めてまいります。

Q 検討を重ねた結果、統廃合が白紙撤回されることはあるのか？

A このたび今後の在り方の検討を始めるにあたり、設置者としての責任として、基本的な方針案をお示しました。今後も、そういったご意見も含めて、様々な視点からのご意見をいただき、検討を重ねていきたいと考えております。

Q 例えば、統合校が令和 10 年度に開校された場合、令和9年度に江津高校及び江津工業高校に入学した生徒はどういった扱いになるのか？

A 基本的な方針が定まった後、詳細について検討を重ねることになりますが、過去の統合校の例では、入学した高校で卒業しています。つまり、最後の年は下級生のいない形で卒業式・閉校式を行っています。

Q これから高校進学を控える子どもたちの保護者の意見が大切である。その意見をしっかりと聞いてほしい。

A 10月を目途にパブリックコメントを実施し、意見を聴く機会を持つ予定です。

Q 地域からの意見を聴くのは、これまでの3回、両校の学校関係者説明会と地域説明会、これで最後なのか？

A 今後開催する総合教育審議会において、学校や地域関係者の代表の方にも出席していただき、意見を聴く機会を持つことやパブリックコメントの実施を検討しています。

意見・要望

- ・7月15日の地域説明会は、できるだけ多くの人に参加できるようにしてほしい。
- ・R10年度までの細かなロードマップを示してほしい。
- ・保護者にとっては、方向性を早く示してもらほうが安心できる。
- ・進捗状況を細かく伝えてほしい。
- ・統合校の開校までの間、入学希望者が減少したり、入学した生徒が不安になったりと思われる。提案のあった基本的な方針案により早期に実現してほしい。
- ・県教委の中で議論を留めることなく、地域のアイデアを取り込む形にしてほしい。
- ・地元や大学、企業などからも声を聞いてほしい。
- ・早く方針を固め、具体的な計画をしてほしい。
- ・プロジェクトチームをつくって統合まで同じメンバーで取り組む方法は考えられないか。
- ・小中学生に行きたい高校アンケートを取っても良いのではないか。
- ・江津市内2校の統合ではなく、浜田市・浜田高校を含めた再編成を検討すべき。
- ・人口減少への対応は地域づくりの視点も必要で、その視点で議論する場があるべき。
- ・充足率80%超での統合案に納得いかない。検討期間を2年くらいとってほしい。
- ・検討時期が遅い。
- ・年内に方針決定は早すぎる。
- ・児童生徒に意見を聞くべき。どのような学習環境を求めているのか、アンケートを取るべき。
- ・県西部エリアとして統合を検討すべき。
- ・県全体の統廃合ルールづくりから始めるべき。
- ・町づくりや人口減少対策に取り組む江津市にとって統合はマイナス。

【その他】

Q 江津市へはいつ説明したのか、市の考え方はどうだったのか？

A 6月議会の知事施政方針の前に、江津市には議会で議論していくことを伝えました。また、6月末に議会での質問・答弁等の詳細について説明しました。江津市からは、地元の見解をしっかりと聴いて丁寧に進めてほしいということと、何よりも江津地域の子どもたちの教育を最優先に考えて検討してほしい旨のご意見をいただきました。

Q 学校関係者説明や地域説明よりも先にマスコミ報道があり、結論ありきを感じる。県教委に対して不信感を抱いている。

A 県立高校の在り方については、知事から6月議会の施政方針で検討をはじめている旨を公表するとともに、県民の代表である県議会議員からの一般質問に対し、基本的な方針案を説明させていただきました。これは、地域の一部の方のみが参加される地域説明会の後、口伝えによる憶測も含めた不確かな情報が広がることによる混乱を避けるためでもありました。

現在、学校関係者説明や地域説明会でご意見をいただく手順として進めています。今後、様々な視点からのご意見をいただきながら検討を重ねてまいります。また、7月中には県教育委員会のホームページに専用のページを作成し、随時、確実な情報発信をしてまいります。

Q 江津工業高校の校名は残してほしい。校名が変わると、校歌も応援歌も変わるようになる。

A 校名や校歌の検討は、基本的な方針を決めた後、決定までのスケジュール等も含めて検討することになります。過去の統合校の例では、校名は公募で決めています。

Q 県教育委員会において、新設校の開校まで責任をもって検討していく専門人材をつけてほしい。

A 県教育委員会として責任をもって検討を重ねていけるよう、少なくとも人事異動があった場合には、担当部署においてしっかりと引継ぎ体制を整えて業務にあたってまいります。

Q 数年かけて議論すべき。江津市のサポートがあれば市外・県外から生徒募集できるはずなので、あと数年、時間をいただきたい。時期尚早ではないか。

A 県立高校の在り方検討は「県立高校魅力化ビジョン」にもとづいて、地域の中学校等卒業者数、志願者数、入学者数の推移等を総合的に判断して検討する時期がきたことによるものです。

中学校等卒業者数の減少は、県内他地域においても同じような傾向にあるため、市外からの入学者数が、今後大きく増加することは難しいと考えています。

また、県外からの入学者数は、江津高校が5年間で10人（年平均2人）、江津工業高校が5年間で4人（年平均1人）であることから、県外からの入学者数が、今後大きく増加する見通しは持っていません。

5年後、10年後を見通したとき、一定の学校規模を維持したうえで、地域と協働した両校の特色ある教育活動を継承・発展・融合させ、将来にわたって地域の子どもたちにとって魅力あふれる教育環境を構築するために、検討をはじめることとしたところで

す。

Q 女子生徒のための寮が必要だと考える。

A 県立高校の寄宿舎は通学困難者のために設置しております。離島・中山間地域における県外生の積極的な募集においては、市町村と連携して高校生住まい確保に対応しているところです。

現在、江津工業高校には寄宿舎（男子専用）を設置しており、平成31年度からは、江津高校も利用可能となっています。女子生徒への対応など新たな整備につきましては、基本的な方針が決定後、検討してまいります。

Q 全国で普通科と工業科との統合例はあるのか？

統合例におけるメリット・デメリットを整理して本県にも生かしてほしい。

A 他県における統合再編の考え方は、1学年の適正規模「4～8学級」を原則としている例が多く、3学級規模で統合対象となっています。その中には、普通科と工業科、普通科系総合学科と工業科のような統合例があります。近隣県では、山口県、広島県、愛媛県、香川県、高知県などでそのような統合校があります。また、岩手県など現在進行している普通科系と工業科の統合計画もあると聞いています。先行事例のメリット、デメリットについては、研究・整理して今後の検討に生かしていくよう考えております。

Q 現在の高校生や開校時期に高校生となる子どもたちにも意見を聴いてほしい。

A 基本的な方針が決定した後、新設校の学びについて詳しく検討する段階において、しめるべきタイミングを見極めて、子どもたちの意見を聴く機会をもちたいと考えております。

意見・要望

- ・少人数の教育にも良さがある。この良さを生かすため江津高校を維持してほしい。
- ・進学を希望する女子生徒の受け皿が必要。普通科系を2学級とすることと、女子寮をつくってほしい。
- ・女子寮は不要、現実的ではない。
- ・中学校における進路指導の中で、専門高校の進路に関する説明が十分にはされていない。江津工業高校卒業生の就職状況など良さが伝わっていない。
- ・統合となると普通科系に女子生徒が多くいると想像される。女子のための教育環境、トイレや更衣室などを整備してほしい。また、バリアフリー化についても重要な点なので、安全・安心な学校となるよう充実させてほしい。
- ・都野津に高校があることが地域にとっては重要である。都野津・二宮は若い世代が増えている地域である。
- ・都野津地区の将来が気になる。
- ・地域説明会に市役所職員がいないことは大変違和感があった。
- ・2校を統合するメリットがわからなかった。統合後の魅力を早期に発信しないと誰も選択しない高校になる可能性大である。
- ・県教育委員会のホームページでの発信を早めをお願いしたい。
- ・浜田高校に流れる生徒が増えているが、中学校の進路指導はどのようにしているのか。小中高連携の進路指導をする必要があるのではないかと。

島根県総合教育審議会委員名簿

任期: 令和5年8月9日～令和7年8月8日

氏 名	職 業 等	備 考
宇谷 留美	元 出雲養護学校PTA会長	
大野 貴代美	島根県高等学校PTA連合会 副会長 (江津工業高等学校PTA会長)	
小川 静香	元 日の丸保育所所長	
香川 奈緒美	島根大学 教育学部 准教授	
川中 淳子	島根県立大学 人間文化学部 教授	副会長
坂手 洋介	島根県PTA連合会 会長 (江津市立青陵中学校PTA会長)	
谷本 祐一郎	株式会社ベネッセコーポレーション 教育情報センター センター長	
野津 浩一	隠岐の島町教育委員会教育長	
肥後 功一	島根大学 理事・副学長(教育・学生支援担当)	会長
前田 幸二	島根日日新聞松江支局 論説委員	

(敬称略、五十音順)

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

(1) 国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。

ア 小学校調査

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

イ 中学校調査

中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(2) 特別支援学校及び小中学校等の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。

ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒

イ 知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

3 調査実施日 令和5年4月18日（火）

4 調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、算数・数学、英語はそれぞれ次の①と②を一体的に出題

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2) 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 県内公立学校で調査を実施した学校数・児童生徒数

市町村立小学校 193 校、義務教育学校前期課程 2 校及び県立特別支援学校小学部 1 校

小学校調査	実施予定学校数	実施学校数（実施率）	実施児童数
公立学校合計	196	196（100%）	5,419人

市町村立中学校 91 校、義務教育学校後期課程 2 校及び県立特別支援学校中学部 4 校

中学校調査	実施予定学校数	実施学校数（実施率）	実施生徒数
公立学校合計	98	97（99%）	5,026人

II 公表について

1 公表の内容

(1) 島根県及び全国の教科に関する調査の結果

(2) 島根県及び全国の質問紙調査の結果

児童生徒質問紙、及び学校質問紙の回答状況

2 公表結果に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であること

3 その他

島根県教育委員会のホームページ及びしまねの教育情報 Web「EIOS」に公表資料を掲載

III 教科に関する調査の結果

1 結果の概要（島根県と全国の平均正答率との比較）

- ① 中学校国語においては、全国平均並みであった。
- ② 小学校国語、算数、中学校数学、英語においては、全国平均を下回った。
- ③ 小学校国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国平均並みであったが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「情報の扱い方に関する事項」は、全国平均を下回った。
- ④ 小学校算数では、全ての領域が、全国平均を下回った。
- ⑤ 中学校国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国平均を上回った。「話すこと・聞くこと」「読むこと」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」は、全国平均並みであったが、「書くこと」は、全国平均を下回った。
- ⑥ 中学校数学では、「データの活用」の領域は、全国平均並みであったが、その他の「数と式」「図形」「関数」の領域は、全国平均を下回った。
- ⑦ 中学校英語では、全ての領域が、全国平均を下回った。

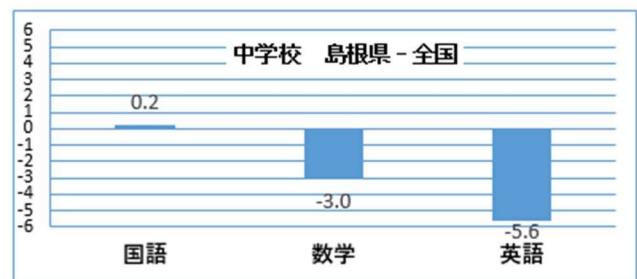
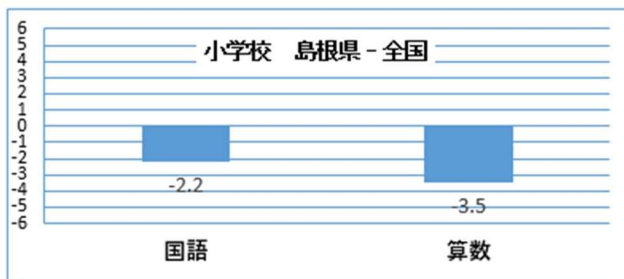
2 各教科の平均正答率

【小学校】

	平均正答率 (%)		
	島根県	全国	差
国語	65	67.2	-2.2
算数	59	62.5	-3.5

【中学校】

	平均正答率 (%)		
	島根県	全国	差
国語	70	69.8	0.2
数学	48	51.0	-3.0
英語	40	45.6	-5.6



【参考】各教科の正答率の全国との差（経年変化）



※1 令和2年度の調査は中止

※2 平成30年度までは、A問題（主として「知識」に関する問題）とB問題（主として「活用」に関する問題）で実施

※3 英語は、平成30年度、令和3年度、令和4年度は実施なし。

3 各教科の正答数分布グラフ及び分類・区分別集計結果

○：県が全国を2ポイント以上、上回るもの ー：県と全国の差が2ポイント未満のもの △：県が全国を2ポイント以上、下回るもの

【小学校 国語】

・：概要 ○：成果 ●：課題

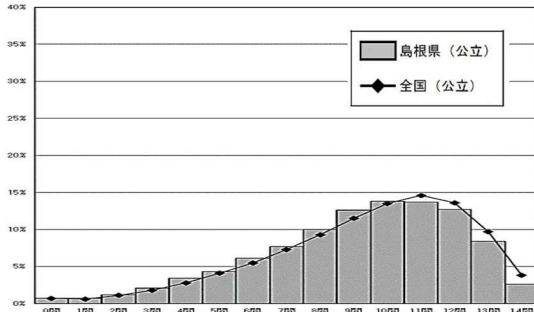
【これまでの課題】

- A 指定された長さで意見文を書くこと、段落の役割について理解し、指定された段落構成で意見文を書くことに課題がある。
- B 自分の意見を支える理由を明確にして書くことに課題がある。
- C 情報と情報の関係を理解し、目的に応じて文章を書くことに課題がある。

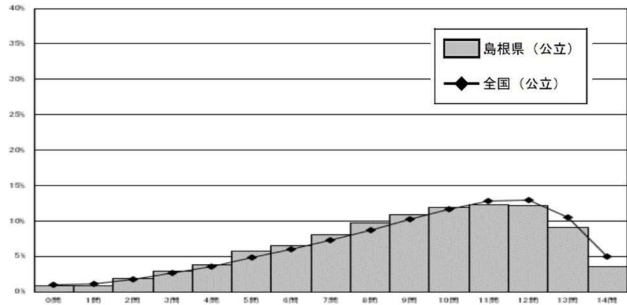
【本調査の状況】

- ・高正答率が全国と比較して少ない。
- ・県平均正答率は65%であり、全国を2.2ポイント下回っている。
- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「情報の扱い方に関する事項」は全国を下回っている。
- ①日常生活と関連が強い漢字や敬語については、おおむね理解が進んでいる。
- ②指定された文字数や条件で書くことについては、やや改善が見られる。…A
- ①資料となる複数の情報を関連付けて、自分の考えを表現することに課題がみられる。…B、C
- ②多くの資料を読み取り、そこから必要な情報を取り出す力が弱い。特に文章で表現された内容の読み取りが不十分である。…C

1 正答数分布グラフ (R5)



【参考】 [R4]



2 分類・区分別集計結果 (R5)

学習指導要領の内容	対象設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	3	70.6	72.6	-2.0	△
書くこと	1	22.6	26.7	-4.1	△
読むこと	3	68.0	71.2	-3.2	△
知識及び技能（言葉の特徴や使い方に関する事項）	5	70.9	71.2	-0.3	ー
知識及び技能（情報の扱い方に関する事項）	2	61.1	63.4	-2.3	△

【参考】 [R4]

学習指導要領の内容	対象設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	2	63.6	66.2	-2.6	△
書くこと	2	47.3	48.5	-1.2	ー
読むこと	4	62.4	66.6	-4.2	△
知識及び技能（言葉の特徴や使い方に関する事項）	5	68.6	69.0	-0.4	ー
知識及び技能（我が国の言語文化に関する事項）	1	82.3	77.9	4.4	○

3 成果が見られる問題2問

- [問題番号] ③ニ「話すこと・聞くこと」 ②
 [島根県値 69.7%] [全国値 70.2%]
 [問題内容] 寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについてわかったことをまとめて書く
-
- [問題番号] ①ニ「書くこと」 ②
 [島根県値 22.6%] [全国値 26.7%]
 [問題内容] 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く。

課題のある問題2問

- [問題番号] ②ニ「読むこと」 ②
 [島根県値 61.2%] [全国値 67.4%]
 [問題内容] 【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する。
-
- [問題番号] ①ニ「書くこと」 ①・②
 [島根県値 22.6%] [全国値 26.7%]
 [問題内容] 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く。

【小学校 算数】

・：概要 ○：成果 ●：課題

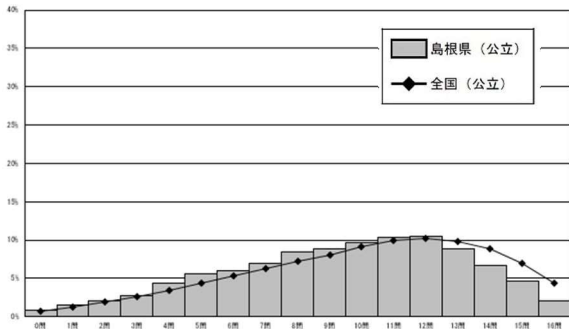
【これまでの課題】
 A 平均の意味について理解することに課題がある。
 B 比の理解や比を簡単にすることに課題がある。
 C 式や言葉を用いて記述することに課題がある。

【本調査の状況】
 ・高正答率が全国と比較して少ない。
 ・県平均正答率は59%であり、全国を3.5ポイント下回っている。
 ・領域別では、すべての領域について全国を下回っている。

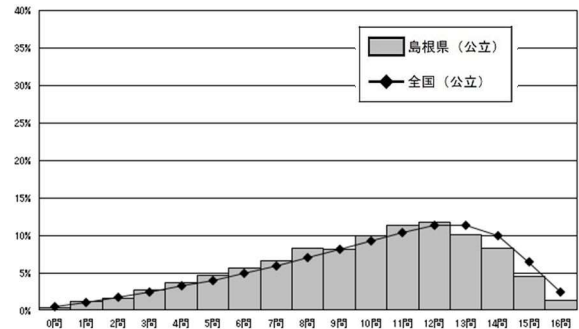
①式が示された計算問題は正しく計算することができる。
 ②示された図形の名称について正しく答えることができる。

❶日常生活の場面の数量の関係に着目し、伴って変わる2つの数量の関係について考察することに課題がある。…C
 ❷図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や計量などについて考察することに課題がある。…C

1 正答数分布グラフ (R5)



【参考】[R4]



2 分類・区分別集計結果 (R5)

学習指導要領の領域	対象設問数※	平均正答率 (%)			差	△
		島根	全国	差		
数と計算	6	63.8	67.3	-3.5	△	
図形	4	43.3	48.2	-4.9	△	
測定	0					
変化と関係	4	66.6	70.9	-4.3	△	
データの活用	3	62.8	65.5	-2.7	△	

【参考】[R4]

学習指導要領の領域	対象設問数※	平均正答率 (%)			差	△
		島根	全国	差		
数と計算	6	67.5	69.8	-2.3	△	
図形	4	60.7	64.0	-3.3	△	
測定	0					
変化と関係	4	49.0	51.3	-2.3	△	
データの活用	3	66.8	68.7	-1.9	-	

3 成果が見られる問題2問

[問題番号] ① (4) 「数と計算」 ①
 [島根県値 81.1%] [全国値 80.8%]
 [問題内容] 全部の椅子の数を求めるために、
 50×40 を計算する。

[問題番号] ② (1) 「図形」 ②
 [島根県値 56.4%] [全国値 59.8%]
 (図形選択 [島根県値 86.8%] [全国値 86.2%])
 [問題内容] テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ。

課題のある問題2問

[問題番号] ① (3) 「変化と関係」 ①
 [島根県値 48.7%] [全国値 55.5%]
 [問題内容] 椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く。

[問題番号] ② (4) 「図形」 ②
 [島根県値 12.8%] [全国値 20.8%]
 [問題内容] テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く。

※グラフの設問数と分類・区分別集計結果の対象設問数が一致しないのは、1つの設問に複数の学習指導要領の領域が含まれているため。

【中学校 国語】

・：概要 ○：成果 ●：課題

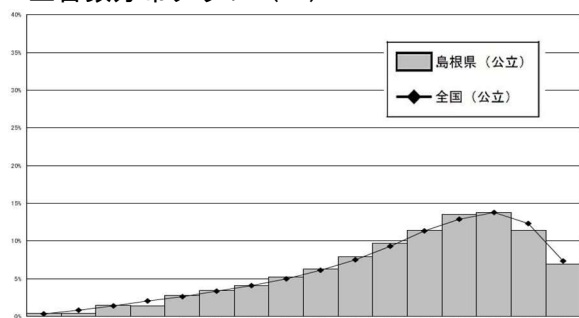
【これまでの課題】

- A 作文問題の無答率が高く、まとまった分量の文章を書くことや、問題を解く際の時間配分に課題がある。
- B 既習の漢字の読み書き、敬語や歴史的仮名遣いの理解に課題がある。
- C 自分の考えがわかりやすく伝わるように資料と関連付けて表現したり、資料の示し方を工夫したりすることに課題がある。

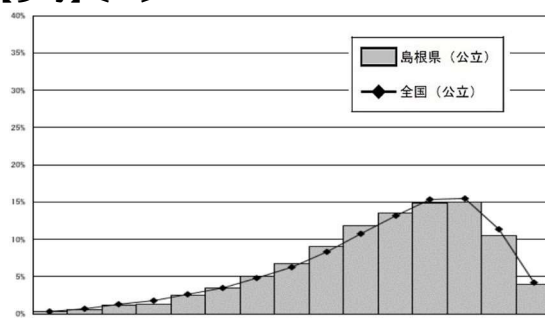
【本調査の状況】

- ・県平均正答率は70%であり、全国並みである。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国を上回っている。
- ・「書くこと」は全国を下回っている。
- ①既習の漢字の読み書き、歴史的仮名遣いの理解に改善が見られる。…B
- ②自分の考えをまとまった分量の文章として書くことに改善が見られる。…A
- ①複数の資料を比較して情報と情報との関係を捉えること、それをもとに自分の考えを形成して文章を書くことに課題がある。…C
- ②表現の効果について、観点を明確にして文章を比較したり根拠を明確にして文章を書いたりすることに課題がある。

1 正答数分布グラフ (R5)



【参考】[R4]



2 分類・区別集計結果 (R5)

学習指導要領 の内容	対象 設問数 ※	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	3	81.5	82.2	-0.7	—
書くこと	2	61.2	63.2	-2.0	△
読むこと	4	62.9	63.7	-0.8	—
知識及び技能（言葉の特徴 や使い方に関する事項）	2	70.1	67.5	2.6	○
知識及び技能（情報の扱い 方に関する事項）	2	62.7	63.4	-0.7	—
知識及び技能（我が国の言 語文化に関する事項）	3	75.8	74.7	1.1	—

【参考】[R4]

学習指導要領 の内容	対象 設問数 ※	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	3	64.4	63.9	0.5	—
書くこと	1	46.6	46.5	0.1	—
読むこと	2	66.2	67.9	-1.7	—
知識及び技能（言葉の特徴 や使い方に関する事項）	6	71.5	72.2	-0.7	—
知識及び技能（情報の扱い 方に関する事項）	1	46.6	46.5	0.1	—
知識及び技能（我が国の言 語文化に関する事項）	3	70.8	70.2	0.6	—

3 成果が見られる問題2問

[問題番号] 4一「我が国の言語文化に関する事項」 ①
[島根県値 84.9] [全国値 82.5%]
[問題内容] 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。①いひける
[問題番号] 2四「知識及び技能」 ②
[島根県値 67.6%] [全国値 67.5%]
[問題内容] 自分がこれからどのような本を読みたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く。

課題のある問題2問

[問題番号] 4三「書くこと」 ①
[島根県値 48.1%] [全国値 50.0%]
[問題内容] 現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く。
[問題番号] 1二「情報の扱い方に関する事項」 ②
[島根県値 63.6%] [全国値 65.1%]
[問題内容] インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する。

【中学校 数学】

・ : 概要 ○ : 成果 ● : 課題

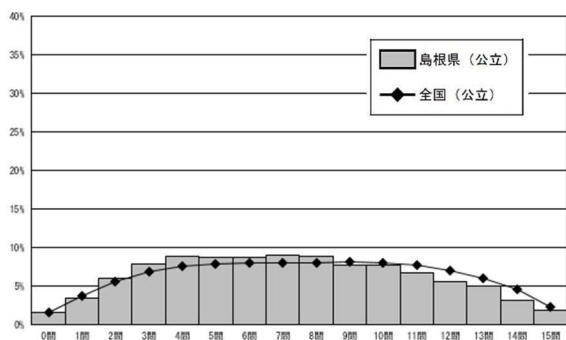
【これまでの課題】

- A 「関数」については、改善の傾向が見られるものの、変化や対応の特徴を基に説明することに課題がある。
 B かっこや分数を含むような、やや難易度の高い文字式の計算について、定着が不十分である。

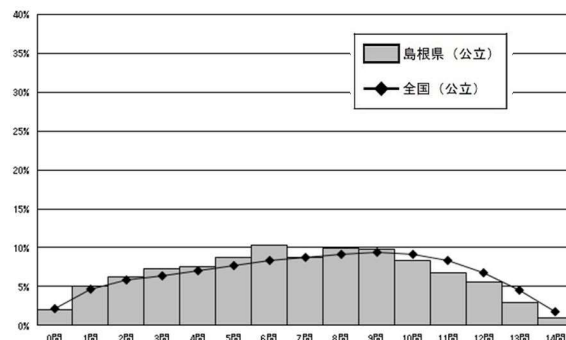
【本調査の状況】

- ・ 高正答率者が全国と比較して少ない。
 - ・ 県平均正答率は48%であり、全国を3.0ポイント下回っている。
 - ・ 領域別では、「数と式」「図形」「関数」の3領域については全国を下回っている。
- ① 「関数」の基本的な知識・技能について改善がみられた。…A
 ② 「データの活用」の数学的な表現を用いた説明ができています。
 ① 「数と式」の数に関する基本的な意味及び概念の理解に課題がみられる。…B
 ② 「図形」の基本的な性質についての理解に課題がみられる。

1 正答数分布グラフ (R5)



【参考】[R4]



2 分類・区分別集計結果 (R5)

学習指導要領 の領域	対象 設問数	平均正答率 (%)			差	△
		島根	全国	差		
数と式	5	58.9	63.0	-4.1	△	
図形	3	29.4	33.2	-3.8	△	
関数	4	48.4	51.2	-2.8	△	
データの活用	3	48.6	48.5	0.1	-	

【参考】[R4]

学習指導要領 の領域	対象 設問数	平均正答率 (%)			差	△
		島根	全国	差		
数と式	5	53.9	57.4	-3.5	△	
図形	3	41.1	43.6	-2.5	△	
関数	3	38.9	43.6	-4.7	△	
データの活用	3	56.8	57.1	-0.3	-	

3 成果が見られる問題2問

- [問題番号] 8 (3) 「関数」 ☞①
 [島根県値 42.0%] [全国値 42.8%]
 [問題内容] グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区スタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する。
-
- [問題番号] 7 (2) 「データの活用」 ☞②
 [島根県値 36.5%] [全国値 33.6%]
 [問題内容] 「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する。

課題のある問題2問

- [問題番号] 1 「数と式」 ☞①
 [島根県値 36.8%] [全国値 46.1%]
 [問題内容] -5、0、3、4.7、9の中から自然数を全て選ぶ。
-
- [問題番号] 3 「図形」 ☞②
 [島根県値 26.4%] [全国値 30.4%]
 [問題内容] 空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ。

【中学校 英語】

・：概要 ○：成果 ●：課題

【これまでの課題】
 A テーマや対話の流れに沿って英文を書くなど、場面や状況に応じて既習の語彙や文法を活用し英文を書く力に引き続き課題が見られ、無解答率が高い。
 B 読んだ内容をもとに思考・判断したうえで、既習の語彙や文法を活用し場面や状況に応じた英文を書くなど領域を統合して活用する力に引き続き課題が見られ、無解答率が高い。

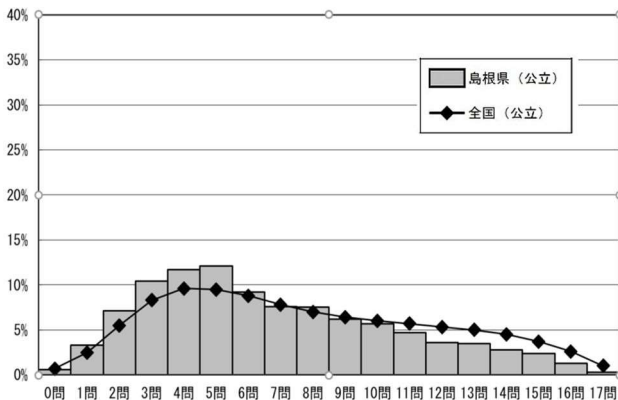
【本調査の状況】

- ・高正答率者が全国と比較して少ない。
- ・県平均正答率は40%であり、全国を5.6ポイント下回っている。
- ・領域別では、すべての領域について全国を下回っている。

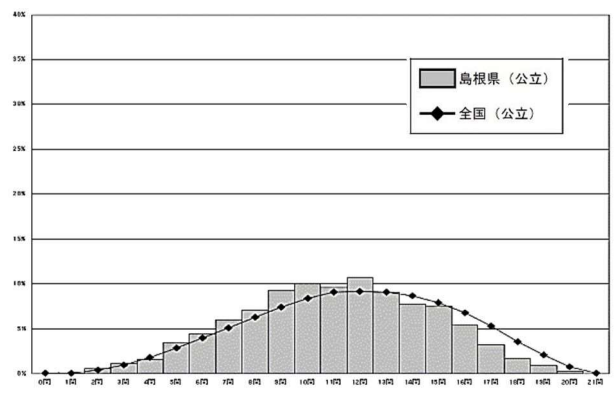
①道案内等の内容については、具体的な場面を設定して言語活動を行うことが多く、生徒の理解につながっている。
 ②短い文章を読んで、最も大切な語句や文を選んだり、段落内の文章の構成を把握したりするような「読むこと」の指導が行われていると考えられる。

❶音声や語彙、表現、文法や言語などの働きなどを理解するとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用する技能に課題がある。
 ❷文構造や文法事項、言語の働きなどの知識を活用し、正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に書くことに課題がある。…A、B

1 正答数分布グラフ (R5)



【参考】[R1]



2 分類・区分別集計結果 (R5)

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
聞くこと	6	52.5	58.4	-5.9	△
読むこと	6	46.2	51.2	-5.0	△
話すこと[やり取り]	0				
話すこと[発表]	0				
書くこと	5	17.3	23.4	-6.1	△

【参考】[R1]

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
聞くこと	7	64.6	67.9	-3.3	△
読むこと	6	54.6	55.6	-1.0	-
話すこと[やり取り]	0				
話すこと[発表]	0				
書くこと	8	40.9	45.8	-4.9	△

3 成果が見られる問題 2 問

[問題番号] ① (2) 「聞くこと」 ①
 [島根県値 62.0%][全国値 64.4%]
 [問題内容] 道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。

[問題番号] ⑧ (1) 「読むこと」 ②
 [島根県値 52.7%][全国値 56.1%]
 [問題内容] ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する。

課題のある問題 2 問

[問題番号] ① (3) 「聞くこと」 ①
 [島根県値 40.3%][全国値 49.8%]
 [問題内容] 買い物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。

[問題番号] ⑨ (1) ① 「書くこと」 ②
 [島根県値 31.4%][全国値 40.4%]
 [問題内容] 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる。

IV 児童生徒質問紙・学校質問紙調査の結果

〔児〇〕：令和5年度 児童質問紙調査項目〇番

〔学小〇〕：令和5年度 学校質問紙（小学校）調査項目〇番

〔生〇〕：令和5年度 生徒質問紙調査項目〇番

〔学中〇〕：令和5年度 学校質問紙（中学校）調査項目〇番

※紙面の都合上、一部調査項目は簡略化して記載しています。

1 授業の質の充実

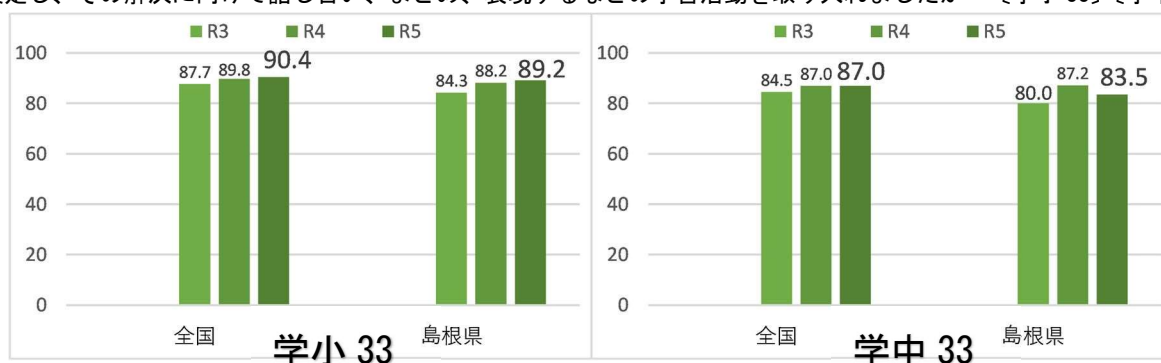
（1）これまでの課題と課題の改善状況を把握するための質問項目及び結果

【これまでの課題】

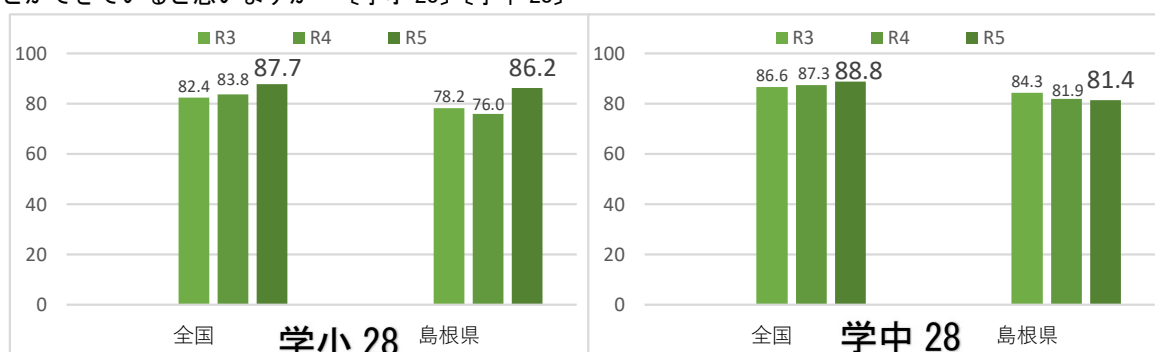
- 授業において、「話し合う目的や話し合いの視点を児童生徒が理解できるように提示すること」「個の考えを表現する時間と場を設けること」などを工夫する必要がある。
- 教科の系統性、教科間の関連性を意識して指導計画を作成し、児童生徒が学んだ知識や技能を活用する場面を意図的に設定する必要がある。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるよう、自己の学びを振り返る時間を充実させるとともに、児童生徒にとって個別最適な学びとなるように授業を工夫する必要がある。
- 授業での ICT 機器を活用する割合は、前年度を大幅に上回ったが、全国値と大きな差がみられる。授業改善の手段の一つとして、日々の授業で効果的に ICT 機器を活用する必要がある。

【質問項目及び結果】

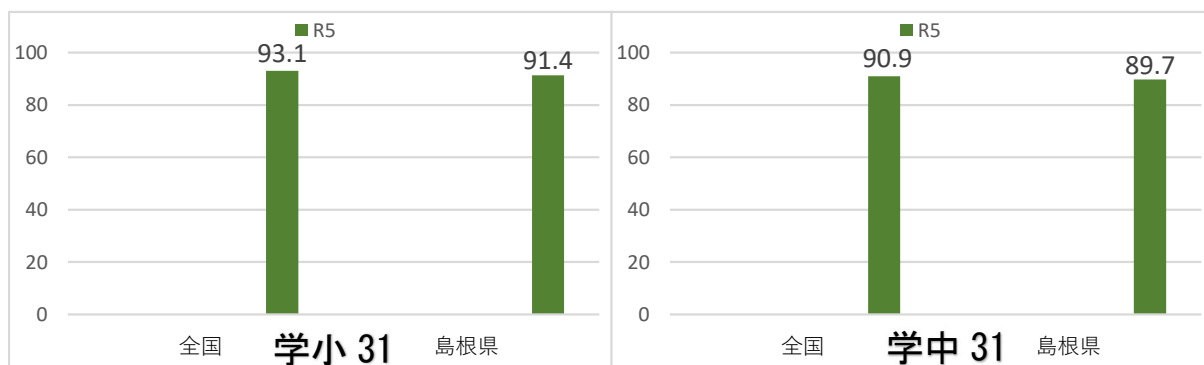
- ①調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか 〔学小 33〕〔学中 33〕



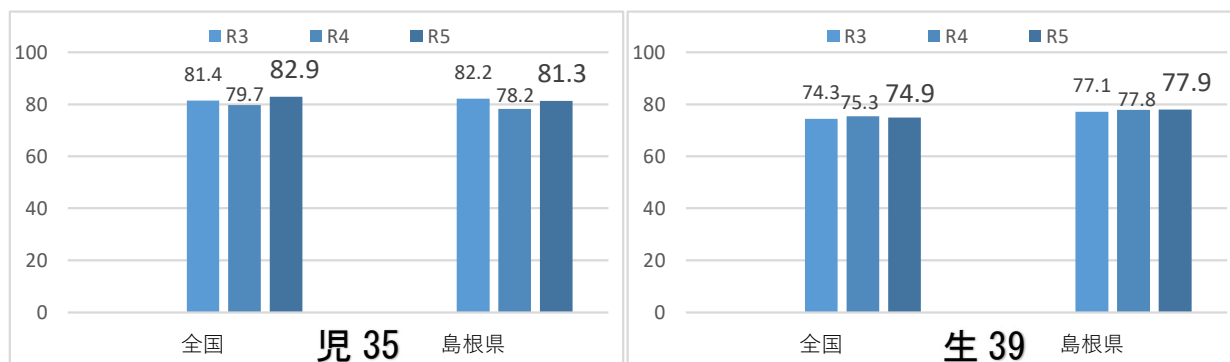
- ②調査対象学年の児童〔生徒〕は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか 〔学小 28〕〔学中 28〕



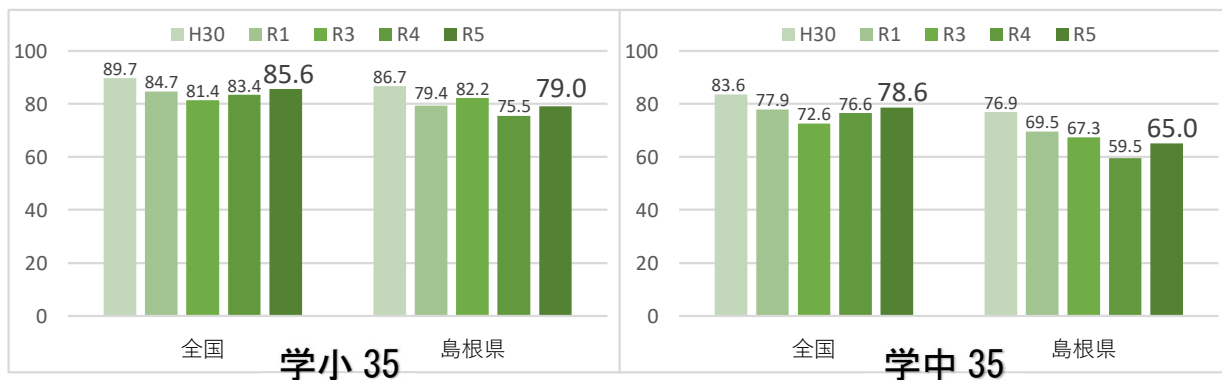
③調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、学習指導において、児童〔生徒〕一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか 〔学小31〕〔学中31〕



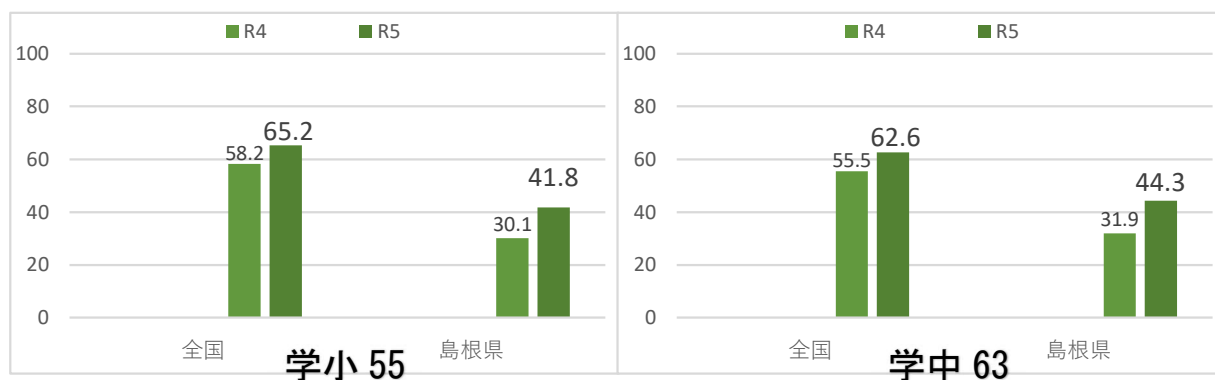
④5年生までに〔1、2年生のときに〕受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか 〔児35〕〔生39〕



⑤調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか 〔学小35〕〔学中35〕



⑥調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか 〔学小55〕〔学中63〕



※ほぼ毎日の割合

(2) 課題の改善状況と本調査で見られた課題 ※数値は質問紙において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定的な回答をした割合

- 小学校では、目的を明確にした対話的な学習が展開される割合が増えている。児童生徒が自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる場が十分に設定されていると考えられる。今後は、話し合いの質を高めるために、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること」「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表すること」等への手立てが必要である。
- 授業において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動が工夫されており、多くの児童生徒がそれを実感している。引き続き、協働的な学びと個別最適な学びの一体的な充実に向けた授業改善に取り組む必要がある。また、各校において ICT 機器の活用が目的とならないよう授業改善の一つの手段として意識し、効果的な日常活用を推進する必要がある。
- 現行の学習指導要領では、カリキュラム・マネジメントが求められているが、各教科の学びを様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設ける割合が減少している。各校において、校長のリーダーシップのもと、教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業づくりを進める必要がある。

2 家庭学習の充実

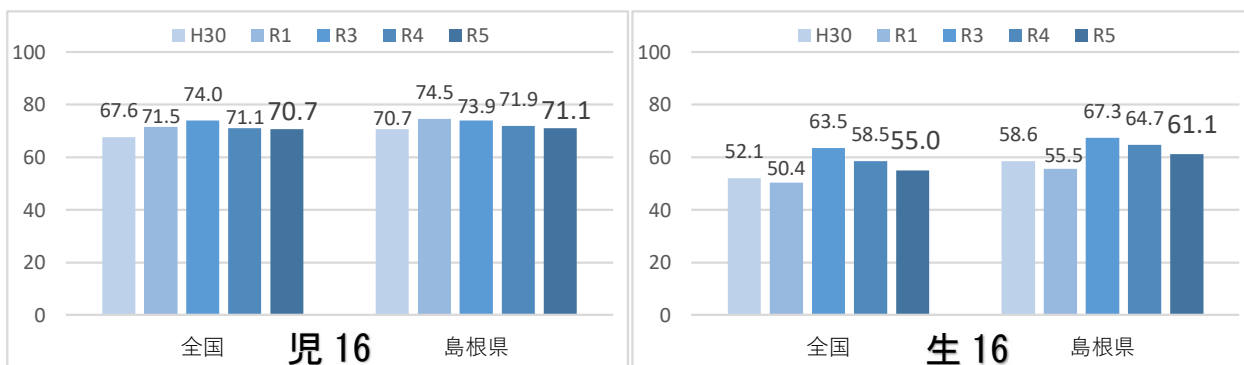
(1) これまでの課題と課題の改善状況を把握するための質問項目及び結果

【これまでの課題】

- 普段（月曜日から金曜日）学校の授業時間以外に1日あたり1時間以上勉強する児童生徒の割合が下がっている。

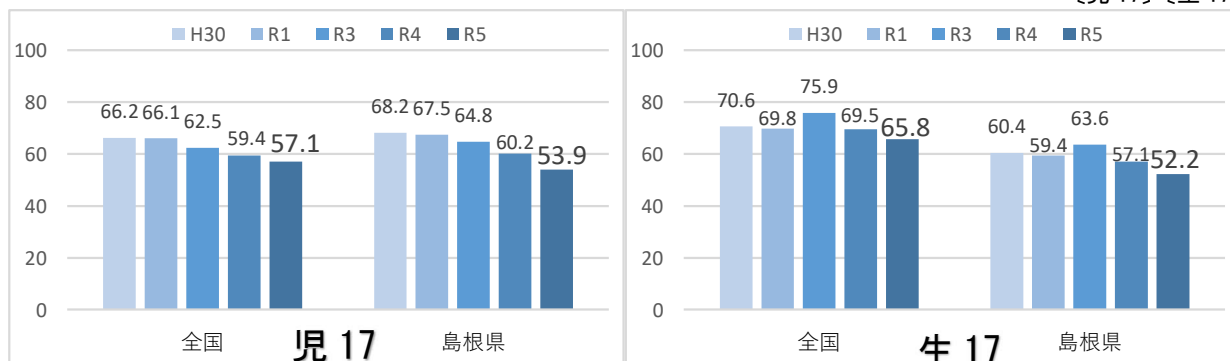
【質問項目及び結果】

⑦家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）〔児 16〕〔生 16〕



⑧学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

〔児 17〕〔生 17〕



※ 1時間以上勉強している割合

(2) 課題の改善状況と本調査で見られた課題 ※数値は質問紙において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定的な回答をした割合

○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は昨年度よりも低くなった。特に、中学校では依然として全国値との差が大きい。しかし、「家で自分で計画を立てて勉強している」と答えた割合は児童生徒ともに全国値よりも高い。また、平日に学習を「全くしない」と答えた割合は全国よりも低い値となっている。休日においては、児童生徒ともに1日1時間以上勉強する割合が全国値を上回っている。引き続き、家庭学習について教職員同士が共通理解を図り、家庭での学習方法について具体例を挙げながら指導する必要がある。

3 地域に関わる学習の充実

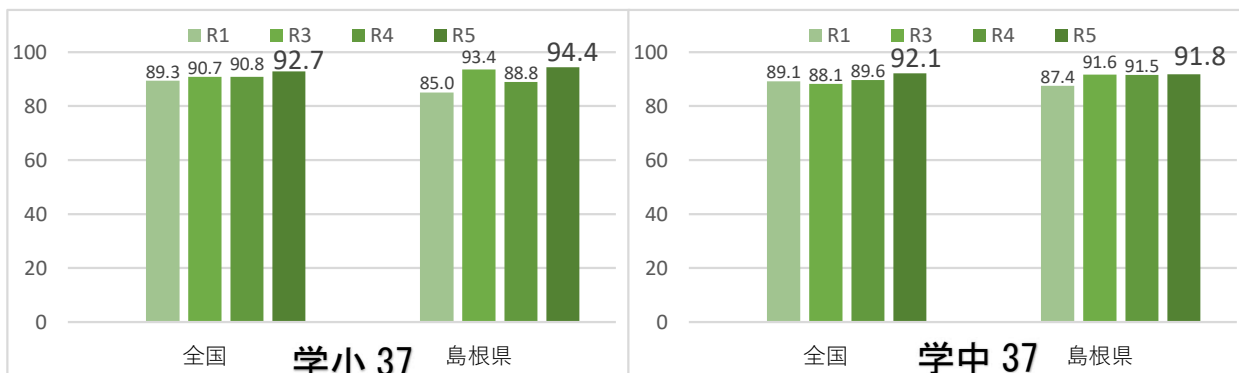
(1) これまでの課題と課題の改善状況を把握するための質問項目及び結果

【これまでの課題】

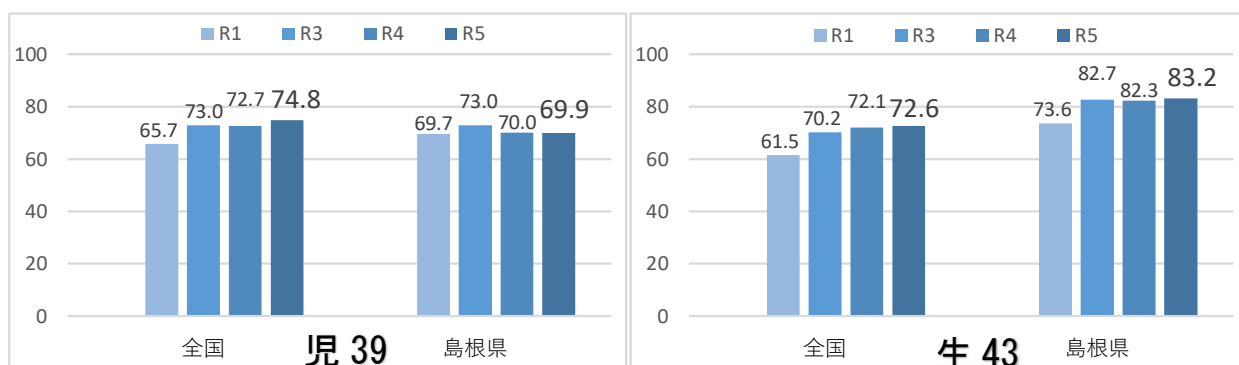
- 「総合的な学習の時間では、集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合は小中ともに下がっている。
- 地域の行事に参加する児童生徒の割合は下がっている。

【質問項目及び結果】

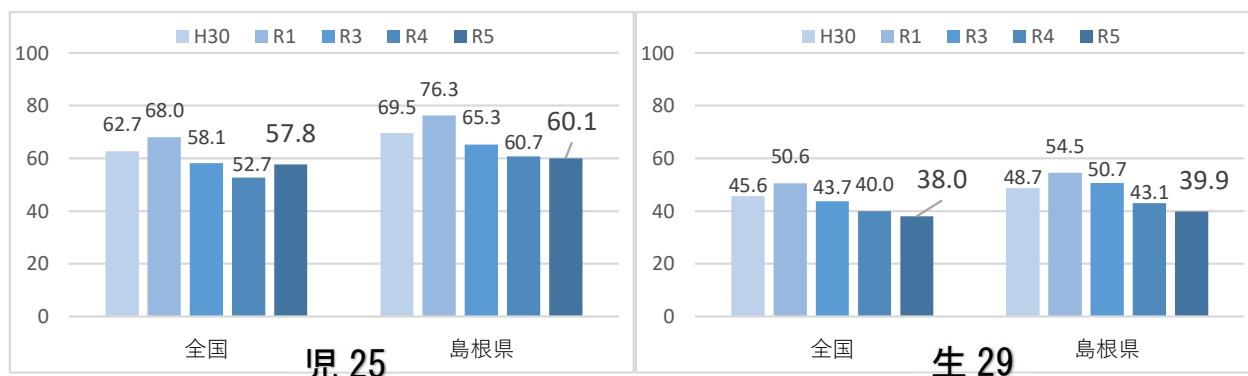
⑨調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか 〔学小37〕〔学中37〕



⑩総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか 〔児39〕〔生43〕



⑪今住んでいる地域の行事に参加していますか [児 25] [生 29]

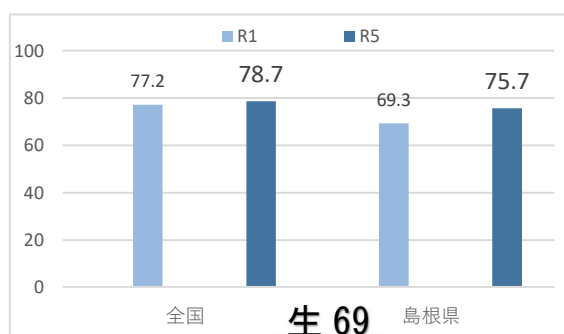


(2) 課題の改善状況と本調査で見られた課題 ※数値は質問紙において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定的な回答をした割合

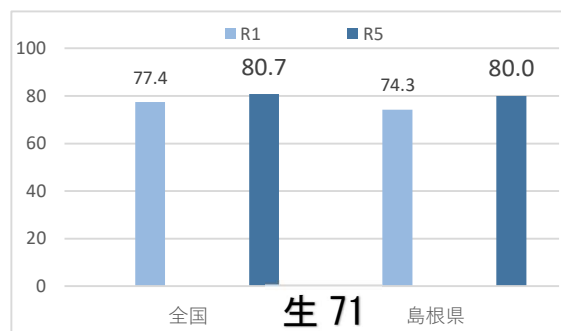
- 学校では、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導が十分に展開されていると考えられる。自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると答えた生徒は全国値を上回っている。一方、児童は全国値を下回っている。引き続き、昨年度発行した「総合的な学習の時間ガイドブック」を活用し、「児童生徒の思考の流れに沿った探究活動が行われるような授業づくり」を行う必要がある。
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」について、コロナ禍で活動が制限される中でも、児童生徒とも全国値を上回っている。これは、県が進めるふるさと教育の成果であると考えられる。今後も地域での体験や素材を教科等の特質に応じて活用し、児童生徒の興味関心を高めていく必要がある。

4 その他 ※数値は質問紙において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定的な回答をした割合

⑫ 1, 2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか [生 69]



⑬ 1, 2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか [生 71]



- 英語の授業では、スピーチやプレゼンテーション、生徒同士による英語で伝え合う活動など学習指導要領で求められている授業が実施されている様子を伺うことができる。英語を使って何ができるようになるかといった学習到達目標をCAN-DOリストに明確に示し、教員が生徒と目標を共有しながら、生徒が「○○ができるようになった」と実感できる授業づくりを今後も継続して行う必要がある。

V 今後の取組

- 1 県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協力し、全国学力・学習状況調査及び県学力調査結果分析に基づいた指導の改善を推進する。

小中高の系統性・連続性を図りながら、基礎的な知識・技能をしっかりと身に付けさせ、人生や社会で生かすことのできる確かな学力と学び続ける意欲を育む教育を推進する。

○授業の質の充実

全国学力・学習状況調査等の各種調査の分析を参考にし、各教科等の連携を図りながら組織的かつ計画的に授業の質を充実させる。

- ・自分の考えを語尾までしっかりと話すこと（説明すること）、書くことを繰り返し指導する。
- ・話し合い場面において、「自分の考えを深めたり、広げたりすること」「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表すること」等を具体的に指導する。
- ・「調べる場面」「考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士がやり取りする場面」「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」などで1人1台端末を日常的に活用する。
- ・児童生徒が身に付ける資質・能力を明確にした授業を行うとともに、校区の小中学校においては育てたい子ども像などを共有する取組を一層進める。

○家庭学習の充実

家庭学習と授業との有機的な結びつきを図るとともに、児童生徒が自分に合った学習方法を見いだすことができるよう、教員の指導改善や児童生徒の学習改善を行う。

- ・「教育情報誌第49号（令和5年3月）」等を活用し、授業を家庭学習につなぐ具体的な指導について教員が共通理解をする。
- ・学習内容を定着させる宿題だけではなく、自分にあった学習内容や方法を選んだり、学びを広げたり生かしたりできるよう、1人1台端末を活用した家庭学習の在り方の研究をする。

○地域に関わる学習の充実

児童生徒一人一人が自ら課題を見付け、解決への道筋を見通しながら様々な解決方法を考える姿勢を育成する。

- ・「総合的な学習の時間ガイドブック」を活用し、「児童生徒の思考の流れに沿った探究活動が行われるような授業」を行う。
- ・地域素材の効果的な活用と、各教科等で身に付けた知識や技能を地域や社会での生活に生かそうとする意欲の醸成を行う。

- 2 課題に基づく今後の授業づくりのポイントについて、説明動画、各教科等の指導の重点及び授業チェックリストを作成し、各学校に配信・配付する。

また、学校訪問指導及び教職員研修等において組織的な授業改善が進められるよう働きかける。